

全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会会）

教育部会名：経済と社会

部会長名：鈴木純

作成者名：鈴木純

概要（2000字）

1. 組織と運営

「経済と社会」を運営する部会の構成員は、平成27年4月1日時点で43名となっている。構成員の所属部局別の内訳は以下の通りである。

経済学研究科：21名（教授13名，准教授6名，講師2名）

経営学研究科：3名（准教授1名，講師2名）

農学研究科：4名（教授2名，准教授2名）

海事科学研究科：3名（教授1名，准教授2名）

国際協力研究科：11名（教授7名，准教授4名）

経済経営研究所：1名（教授1名）

部局によっては、共通授業科目の担当者が固定されておらず、部局全体から毎年度の担当者が構成員に加わる形で構成されている。

部会の構成員が6部局にまたがっており、しかも構成員数が多いことから、日常的な部会の運営はメール会議によって行っている。過去の経緯から、今年度の授業を担当しない者も構成員として含まれているため、来年度からは、当該年度の授業を担当する者を中心としたコンパクトな部会構成へと変更する予定である。

部会長および幹事は部局ローテーションによって選出している。2004年10月の申し合わせによって、部会長は部会員数が多い経済学研究科とその他の部局から交互に選出することになっており、「経済→国際協力→経済→農学→経済→海事科学（→経済に戻る）」というローテーションをとっている。また、前年度の幹事担当部局から次年度の部会長を選出することになっている。平成27年度の部会長は経済学研究科、幹事は海事科学研究科から選出した。

2. カリキュラム

(1) 開講科目数と担当部局

「経済と社会」部会では、前期11コマ，後期7コマ，年間合計18コマの講義を提供している。各部局の分担は、経済学研究科7コマ，経営学研究科2コマ，農学研究科3コマ，海事科学研究科2コマ，国際協力研究科3コマ，経済経営研究所1コマとなっている。

授業科目「経済入門」は経済・農学から、「経済社会の発展」は経済から、「現代の経済」は経済・農学・海事・国際協力・経済経営研究所から、「企業と経営」は経営から、それぞれ担当者が選定されている。

(2) カリキュラムの編成

「経済と社会」部会が担当する科目は、大きく分けて次の4つの領域からなり、「経済入門」3コマ，「現代の経済」が10コマ，「経済社会の発展」が3コマ，「企業と経営」が2コマとなっている。

いずれの科目も「経済学・経営学を専門分野として専攻しない学生」を対象として、普段見過ごされがちな「経済のしくみ」に関する基本概念や経済の発展過程、

現代の経済や企業経営が抱える問題点と課題などを、わかりやすく解説することを目的としている。

それぞれの科目の学習目標は次の通りである。「経済入門」は、様々な経済問題を理解するために必要な経済学の基本的な概念や分析枠組みを中心に講述することによって、経済学を専門としない学生が経済学的な考え方の基礎を身につけることを目標としている。「現代の経済」は、経済学の基本概念を用いて現在の日本や国際社会が直面する経済的な諸問題を考察する能力を身につけることを目標としている。

「経済社会の発展」は、日本経済や世界経済の歴史的発展過程を理解することを通じて、歴史における経済社会の変化の流れを把握し、それが現代に及ぼした影響を考察する能力を身につけることを目標としている。「企業と経営」は、経営学を専門としない学生にとって、将来社会人として必要になる企業あるいは経営に関する基礎的な知識を習得することを目標としている。

(3) 授業の実施内容

それぞれの授業では、各科目の学習に必要な基礎的知識、一般的知識の習得や諸概念の理解をめざすとともに、各担当者の専門分野に基づいた個別トピックスや、現在の経済社会における具体的な問題、時事問題などについての解説も織り交ぜることによって、学生の授業への興味を引きつける工夫がなされている。ただし、開講形態から見て大教室での多人数講義が中心であることから、学生個々のニーズに応える授業内容の設定や授業方法の工夫、質問等へのきめ細かな対応については、担当教員の工夫や努力だけでは解決できない制約があることは否めない。しかし、講義資料に加えて補足資料の配付や映像教材の利用によって、初学者でもトピックする理解が進むような工夫がなされているとともに、宿題やミニテストなどによって、より理解を深める工夫もなされている。これらの点について、学生の授業評価では全体的に肯定的な回答がなされており、おおむね教育の目標に対して効果が得られているものといえる。

3. まとめ

本部会は多部局の多人数の教員によって構成され、かつ年度ごとに相当数の担当者が入れ替わる部会であり、構成員間で十分な意思疎通を保つことは難しい状況にある。また、授業の実施に当たっても、大教室での多人数講義が中心であるという制約がある。しかし、その中においても、授業内容や授業方法について、担当教員による工夫と努力が行われていることから、学生から肯定的な評価が得られており、教育の効果が発揮できている点は評価して良い点であろう。

教育部会用自己点検・評価シート（様式1）

項目・観点ごとの記述

基準5 教育内容及び方法

5-1 【教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）が明確に定められ、それに基づいて教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準が授与される学位名において適切であること。】

5-1-③： 教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮しているか。

観点に係る状況（150 字以上）

配慮している。

学生の履修に当たっての選択肢が幅広くなるよう、経済学・経営学に関する基礎的な考え方、経済社会の歴史・現状など、主として取り扱う内容が異なる4種類の科目を配置し、計18科目を開講している。講義では、学生に「現実の経済的問題に目を向けることの大切さ、おもしろさ」を伝えるように、各担当教員が工夫をしている。また、最新の学術の発展動向を踏まえるとともに、学生の多様なニーズに応えるために、各担当教員の専門分野についても十分な配慮がなされている。

根拠資料

シラバス、パワーポイントのデータ、授業での配付資料、教科書

5-2【教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。】

5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法が採用されているか。

観点に係る状況（150 字以上）

採用されている。

「経済と社会」の教育目的および講義内容に照らして、また大人数・大教室講義が多いことから、「教員による講義」が中心となっているが、パワーポイントによる授業、映像資料の活用、資料の配付等、講義内容を踏まえた適切な媒体を通じて、講義内容が学生に十分に伝わるように、各担当教員が工夫をしている。さらに、必要に応じてティーチング・アシスタントを雇用している。

根拠資料

シラバス、パワーポイントのデータ、授業での配付資料・映像資料

5-2-②： 単位の実質化への配慮がなされているか。

観点に係る状況（100 字以上）

配慮がなされている。

シラバスを3月までに作成・公開し、学生が授業の内容についてあらかじめ理解したうえで受講できるようにしている。また、授業内容の理解を深めるために、複数回の試験・小テスト・レポート等を課し、授業時間外の学習とあわせて、授業内容の習得状況に応じて成績が決まるように配慮している。

根拠資料

シラバス、試験問題・レポート課題

5-2-③： 適切なシラバスが作成され、活用されているか。

観点に係る状況（50字以上）

作成・活用されている。

各担当教員は、授業の目標や成績評価方法を明示したシラバスを作成し、それに基づいて授業を進めるよう努めている。

根拠資料
シラバス

5-2-④： 基礎学力不足の学生への配慮等が行われているか。

観点に係る状況（100字以上）

配慮されている。

各担当教員が、授業において学生の予備知識・基礎学力を確認しており、授業内容に関する学生の質問を受け付け、授業時間中または個別に質問に答えるとともに、配付資料等で知識の不足を補いながら講義を進めるようにしている。

根拠資料
シラバス、授業での配付資料

5-3【学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が明確に定められ、それに照らして、成績評価や単位認定、卒業認定が適切に実施され、有効なものになっていること。】

5-3-②： 成績評価基準が策定され、学生に周知されており、その基準に従って、成績評価、単位認定が適切に実施されているか。

観点に係る状況（100字以上）

適切に実施されている。

シラバスおよび授業中の説明において、成績評価の基準と評価方法を学生に明示している。さらに、この基準・方法に則って複数回の試験・小テスト・レポート等の結果に基づいて厳正に成績判定を行っている。

根拠資料
シラバス、授業での配付資料、成績評価の分布表、答案、提出課題

5-3-③： 成績評価等の客観性、厳格性を担保するための措置が講じられているか。

観点に係る状況（100字以上）

講じられている。

シラバスおよび授業中の説明において学生に示された成績評価基準と評価方法に則って、複数回の試験・小テスト・レポート等の結果に基づいた厳正な成績判定が行われている。また、成績評価については学生からの異議申し立てが認められている。加えて、

授業評価アンケートによって、学生からのコメントを求めるとともに、各担当教員に回答を提示することを強く奨励している。

根拠資料

シラバス、授業での配付資料、授業評価アンケート

基準6 学習成果

6-1 【教育の目的や養成しようとする人材像に照らして、学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、学習成果が上がっていること。】

6-1-②： 学習の達成度や満足度に関する学生からの意見聴取の結果等から判断して、学習成果が上がっているか。

観点に係る状況（100字以上）

学習成果が上がっている。

学生の授業評価においては、総合的には「有益であった」という回答が多い。理解度については必ずしも高くない授業があるが、授業内容の専門性が強いことによるものと考えられ、「大学における学問・研究とは何か」を示し得たという意味では有意義だったと評価できる。

根拠資料

授業評価アンケート

基準7 施設・設備及び学生支援

7-1 【教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。】

7-1-④： 自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか。

観点に係る状況（50字以上）

シラバスや授業での配付資料において、授業で使用する教科書や参考図書・資料が示されており、図書館に整備されている図書やインターネットで検索できる資料等の利用可能である。

根拠資料

シラバス、授業での配付資料、図書館所蔵図書データ

7-2 【学生への履修指導が適切に行われていること。また、学習や課外活動等に関する相談・助言、支援が適切に行われていること。】

7-2-①： 授業科目のガイダンスが適切に実施されているか。

観点に係る状況（100字以上）

実施されている。

各授業科目の第1回目において、シラバスに基づいて授業の目的・ねらい、授業の概要と計画、成績評価の基準・方法、履修上の注意事項等がガイダンスされており、学生への履修指導が適切に行われている。

根拠資料

シラバス、授業での配付資料

7-2-②： 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており、学習相談、助言、支援が適切に行われているか。

また、特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への学習支援を適切に行うことのできる状況にあり、必要に応じて学習支援が行われているか。

観点に係る状況（100字以上）

適切に行われている。

シラバスや第1回目の授業でのガイダンスにおいて、各講義担当者のオフィス・アワーと連絡先を学生に周知している。また、学生からの授業中・授業後の質問やメールによる質問等を受け付けることによって、学習支援を行っている。

根拠資料

シラバス、授業での配付資料